
零番隊長転生記

死神

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

零番隊長転生記

【Nコード】

N6624Y

【作者名】

死神

【あらすじ】

零番隊長が無断で現世に普段着で遊びに来ていた。だが来た時トラックに気づかず轢かれてあっけなく死亡した・・・が、死んだはずなのに生きていた。死神の力は継続しているだから助かったと思いきや体全体が縮んでいて隣にはルフィが！前の生活習慣とは全然違う新しい暮らしに苦労するわ、海賊がうじゃうじゃいるわ。と、大海賊時代で頑張る話。

1 第二の人生の始まり

「きゃ、きゃ？（ここは、どこだ？）」「
ん？ちよつと、待った。きゃ？つてなんだ？

「きゃきゃー！？（お前は誰だよ！？）」
いや……何故普通に喋れないんだ？

??「お！レオ！兄ちゃんだよー^^」
兄ちゃん？なんだ、この子供^{ガキ}は。

??「おい、ルフィ。ゴム人間なんか嫌われるだけじゃねえのか？」
ゴム人間？
あと、この餓鬼は『ルフィ』って言うのか。じゃあ、あのおっさん
らは？

ル「シャンクス！嫌われないよ！レオだつて笑ってるよ。」
まあ、嫌われないように笑ってるだけだが。
で、このおっさんは『シャンクス』か。聞いた事は無い。

ル「シャンクス、海賊船に乗せてよ。」

……ん？ちよつと待てよ。海賊船？海賊が居るのか？

いや、海賊なんて現世でも見たことが無いぞ？ちよつと、記憶整理
するか。

たしか、1時間前俺は山じいに無断で現世に遊びに行ったんだっけ？しかも、普段着に着替えて。これはもう違反行為なんだけどな。

「……あ。俺、現世に着いた時、体に物凄い衝撃を受けたよな。確かトラックに轢かれたっけ？ああ、なんて馬鹿なんだ。」

だから、今体が小さくなってるんだな。……体が小さく？

まさか、転生って奴か！？乱菊が言ってたな。確かよく小説に出てくるって。現世で流行ってるって。俺はそのパターンか……。だとすると、前とは違う世界になるよな……。だって海賊が居るし。

このおっさんも海賊か？へへ、海賊には見えないけどな。そろそろなんか喋ってみようか。分からないだろうけど。

「きゃいきい？（ルフィ？）」

ル「シャunks！レオが今！ルフィって言った気がする！」

シャ「何！？レオ！おれの名前も！」キラキラキラキラしてるな！。

とりあえず言っておくか。

「きゃんくしゅ！（シャunks！）」

あれ？なんか言えるようになった？

シャ「おおー！」

??「おれはルウ。言ってみて！」

「るつ?」

あ、言えるようになったかも。

ルウ「おお！凄いい！」

??「おれはベンだ。」

シャ「ええ！？ベンも頼むのか！？」

ベ「別にいいだろ？」

「ベン！」

完璧に言えるし。

ル「レオ〜凄いいぞ〜。」

。ありがとうなルフィ。でも……なんか……眠くなってきた……

「ふぁ！（はっ！）」
寝てた……orz。

ル「あ！起きた〜！」

ドツカアアン

「ふえ！？（何だよ！？）」
何が起きた！？

あと、シャンクスは？居なくなってる。

ル「大変だ。じいちゃんが帰って来た！」

いや、普通そこ喜ぶところだぞ？
うん？海兵？

海兵「ガープ中将！手荒です！」

ガ「うっさいわい！」

海兵「？あ！」

ガ「なんじゃ？」

海兵「先に行ってます！剃！」

剃？剃って何……瞬歩より遅いじゃん。なーんだ。

スタツ。

海兵「君がルフィ君？で、この子がレオ君？」

ル「そうだ！」

「ふあ〜！！（うん！）」

海兵「（レオ君可愛い。）向こうでなんか食べない？」

ル「え！？行く行く！」

海兵「（ルフィ君も食欲旺盛だもんな。）じゃあ、先に行っておいで。レオ君は僕が預かるよ。」

ル「おお！はい。」

うおーいーい！肉>俺かよ！？

海兵「レオ君？」

「きゃ〜！（誰〜！）」

そつえばこの海兵誰だよ！？

海兵「あ、僕はフェリーだよ。」

フェリー！？船じゃないんだからさ、もうちょっと良い名前付けてあげれば良かったのに。可哀想・・・。

「ふえりー？」

ル「あ！ちゃんと聞いた！レオすげー！」

ありがとう。

フェー！？まだ生まれたばかりなのに。天才かなー？」

うーん。どっちかというと、前世の記憶があるからだよ。でもさ、死神の力はあるんだ。あの黒鷹と銀虎と青龍が精神世界に居るのを確認したからな。

ガ「ほ」。さすがわしの孫じゃ！」

え？この人が俺の爺さん？・・・え？このジジイなんか強そうだな。

なんか俺、今日から新しい人生ですが調子が狂いそうです。

2 修行で誤って

あれから、4年の歳月が経った。

え？経ち過ぎ？だって何も無かったし。あ、エースには会った。サボにも。

で、今無人島に居るんだよねー。なんでかな？このジジイ！！覚え
てる！

何か無いかなー？

ガオオオ！！

うん？巨大な・・・熊？えー！？虚並の大きさ！？何コレ！コルボ
山より大きいよ！！

ガオオオ！！！！

てってれ〜 とりあえず逃げよ〜。

う〜ん。木の上に行こう！

タツタツタツタツ。よっこらせっ！ふう。登れた。

・・・・・・うん？なんだこれ。グルグル模様が付いた
バナナ？何コレ。いいや、食っちゃえ！！なんて適当なって言われ

スタツ

ええええええええ！！！！！なにこれ。

ジャバアアア

え？水？

ペロツ……塩辛——い！！海水だ——！！！！！！！！

なんなの—————。こんな無人島やだあああああああ！！！！

出る————！！！！！！！！！！

バサツ、バサツ。

え？今の格好は………隼！？さっき水で今は隼！？

なんなんだよこの世界は！

「どうなってるんだあああああああ！！！！！！！！！！！！！！」

って、飛びながら叫んでたら、

ドンッ！！！！！

何かに……マストに当たった。海軍軍艦のマストに。

何故か元の姿に戻ったが、そのまま落下。

ドテッ。

「痛い……。」

フェー！？レオ君！？

フェリー？フェリーなの？

ガ「なんじゃ、どうした……。レオ！？なんでここに居るんじや
！」

なんでこのジジイが居る？……。ジジイの軍艦に当たったのか！？

「うう……。泣」

俺ってこんなに泣き虫だったか？

ガ「うー、ウターンじゃ！」

ウターン？どこに行くんだ？

ガ「海軍本部に戻るぞい！最速での！」

海兵達「ハッハッハッはっ！！！！！」

息びったりだな。じゃなくて、頭が…………orz。

バタリ

フェ「レオ君！？」

俺の意識はここで一旦途絶えた。

2 修行で誤って（後書き）

いつも思うけど、他の人と比べると短い・・・。
（汗）
一応努力しようとしてますよ。

3 悪魔の実って何ぞや？

ハロー、ハロー。エブリバデイ！（某21世紀少年2弾の）・・・じゃなくて、こんにちは。俺は、モンキー・D・レオ。なんで苗字が「モンキー」なの？あとの真ん中の「D」は何？なんかの略か？

只今、海軍本部と言う所に居るそうです。

まあ、俺は無人島で巨大な熊に追いかけて木に登ってぐるぐる模様の変な実を食べて、何故か水とか鳥になれて飛んでたらジジイの軍艦のマストに当たったと言う事故が起きて今に至るわけ。

もう、どうなってもいい・・・いや、良くない！俺は、戻る！東の海に戻るんだ！

「俺は、東の海に戻る！」
と、言ってみた。オリス広場で。

ガ「何言ってるじゃ！最強の海兵になるんじゃ！」

「俺まだ、4才ですが!!！」

フェ「4才にしては賢いよな。」

他の海兵さん達もうんうん頷いてる。頷くなああああ!!!!!!
ジジイの味方するんじゃねえよおお!!!!

「でもさ。無理でしょ。」

ガ「駄目じゃ！最強の海兵になるんじゃ！」

「あ、そういえばさ。」

ガ「スルー！？」ガーーーーン

「ぐるぐる模様の果物見つけたんだけど。」

ガ「何！？」

「なんか知ってんの？」

ガ「それは、“悪魔の実”じゃ！」

悪魔？悪魔の実って何ぞや？

「何それ。」

ガ「今、レオが言った果物の名前じゃ。」

「へへ。変な名前。」

フェ「まあ、確かに。」

ガ「その実どうした。」

「食った。」

全海兵「「「「何イイイイイイ！！！！！」」」」

ガ「何で食ったんじゃ！」

「無人島で熊に追いかけて木に登ったらそれがあってなんとなく食った。」

フェ「適当……。」（汗）

ガ「何の実じゃ？」

「えーと、確か鳥になれて。」

ガ「トリトリの実か。」

「水にもなれたけど？」

ガ「何！？二種類！？科学班！ー！！！！！！！！」

??「はい。はいはいはい。なんででしょう？」

「誰だよお前。」

??「ループです。科学2班長です。で、なんででしょう。」

ガ「何じゃったけ？」

「はあ。えーと、鳥になれて「トリトリの実ですね。」最後まで人の話を聞けええ！！！！」

ルー「すみません。」

「水にもなれたんだけど。何の実？」

ルー「あ、それ実際に在ったんですね。その実はトリウミの実です。」

「トリウミの実？」

ルー「はい。鳥ならなんでもなれますし、海人間にもなれます。」

「わお。すつげー実食ったんだなー。」

ルー「悪魔の実の能力者全員、海が弱点で海水に触れると力が抜ける。でもレオ君は海人間でもあるからカナズチにはならないね。」

「へ〜。って言う事は、ルフィにも勝てるのか。」

ガ「そうじゃの〜。じゃなくて、海軍本部に残れ。」

「やだ！戻るも〜ん！」

嫌だよ、こ〜じ。

「今度来るから〜。それで良い？」

ガ「う〜む。分かったわい！」

「じゃ、バイバイ！」

鳥に〜なる〜う 何にし〜よお〜かな〜

「う〜ん……………じいちゃん。」

ガ「お？なんじゃ？」

「鳥って言ったら？」

ガ「焼き鳥。」

「食べ物しか思いつかねえのかこのクソジジイ。」

フェ「フェニックスとかは？」

「フェニックスって不死鳥だろ？」

フェ「うん。（あ、不死鳥マルコと同じ？）」

なってみよう！

ボワアア

「うっひょ————！！青い炎出てきた！」

フェ「本当になっちゃった……………」

ル「才能ありますね。」

「じゃあね————！！！」

バサッ、バサッ

ふう。これで戻れる——!!——!!——!!

3 悪魔の実って何ぞや？（後書き）

キャラ壊れた・・・。

4 6年後

ドーン島に無事帰還し、途中コルボ山でルフィとエースと決闘したが、基本的にフーシャ村で手伝いをしていた。

なんで、フーシャ村に居るか。それはコルボ山に行った時の事をちよっと話してみれば分かって貰えると思う。

↳ 帰還してから2日後↳

俺はコルボ山に久しぶりに行ってみたくなった。サボが行方不明なのは知ってる。

ドンツドンツ!

ダ「誰だい!ここは山賊の家だぞ!.....居ない?」

「お邪魔しまゝす。」スタスタ

ダ「下!?!てか誰だよ!」

「ルフィ!エース!」

ル「ああ!!レオ!!!!」

エ「レオ!?!」

ダ「レオってコイツか?」

ル「そうだ!」

エ「大きくなつたな。」

「あ、どうもこんにちは。」

ダ「お、おう。」

「俺のバカズがお世話になってます。」

ダ「バカズ？」

「エースとルフィの事。」

ダ「ああ、なるほど。」

「俺は、モンキー・D・レオ。」

ダ「モンキー!？」

「ガープの孫で、5つ違いのルフィの弟です。」

ダ「ルフィの弟!？逆じゃねえのか!？」

「いえいえ。事実です。」

ダ「……………」(驚)

驚いて固まってるよ。

「そういえば、ルフィ。俺も能力者になつたぜ？」

ル「なんの実だ？」

「トリウミの実。さっき2日前に海軍本部から帰還して来たんだけど、聞いたらそれだった。しかも希少種なんだよ。希少種は全部で4つ。その4つの内の1つだよ。」

ル「えええー！！！！！！」

エ「二日前は海軍本部に居たのか！？」

「おう。」

ダ「なんだってー！！！！」

あ、そういえばこのおばさんカーリー・ダダン。

マ「まーまー、お頭落ち着いて。」

こいつ能力者じゃないけど顔が鶏人間のマグラ。山賊なのに常識人

ダ「お前はここにいか？」

「いや、俺はフーシャ村に住んでる。たまに遊びに来るけど。」

ダ「そうかい。」

「だって、この2人だけでもつらいでしょ？」

ダ「分かってくれるのかい？」

「ああ。」

ダ「すまないね。」

「ああ。俺、もう村長家に戻らないといけないから。じゃあな！」

ル「またな〜〜!!！」

エ「また来いよ〜〜!!！」

そう、あの二人は食欲がヤバイ。ジジイが居るみたいなものだし。ちなみに俺は普通の量だ。たまに食い過ぎるけど。

そして、フーシャ村では。

「なあ、それ持っていくよ。」

『すまないね。じゃあ、あそこの倉庫に持って行ってくれるかい?』

「了解。」

倉庫から距離は100Mそんなに遠くない。

さっさと運んで次に移る。結構早くこなしてる為、村人や村長にも褒められている。

普通の子供なら喜ぶけど、俺は普通にする。

村長に「お前は大人になったら何になるつもりだ？」と言われた。エースとサボとルフィは海賊だが、

「俺は海賊になるつもりはない。賞金稼ぎか海軍だ。」と答えたところほつとされた。どんだけ心配してんだよ。海賊なんてなりたくないよ。

たまにジジイがやってきたりしたが無事に帰ってもらったりして、6年後。

ルフィは15才。エースは18才。俺は10才になった。去年エースが海に出た。今日の新聞に手配書が出ている。政府は一応危険視はしているようだ。

この日は何故か海軍本部の巡回船が港にやって来た。どうやら、俺がここに居ることが分かったようで巡回しているついでに来たという。海軍本部に来て検査をするだけと聞いて、ルフィや村人に説明し、巡回船に乗り込む。そして、出航しドーン島から離れた。

この船は巡回船兼快速船だった。しかも、この快速船世界最速のようだ。4時間後、エニエスロビーについた。

コトコトコトコ

正義の門って言う巨大な扉が少し開く。しっかしデカイ。なんだよこの大きさ。邪魔だなー。

ん？何か見えて・・・目的地の海軍本部か。あ、じいちゃん発見。

でも、検査だけじゃないと思うんだよなー。嫌な予感。

4 6年後（後書き）

時間経つの速いです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6624y/>

零番隊長転生記

2011年11月20日20時06分発行